



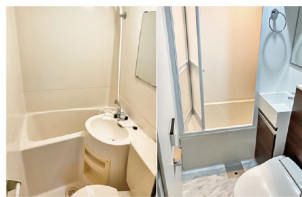
## バス・トイレ分離を実現 コンセント設置で機能性向上

### アサヒ衛陶

水回り設備メーカーのアサヒ衛陶(大阪市)は、ユニットバスのバス・トイレ分離を可能にする「PICCOLA SA NITARY UNIT (ピッコラサニタリーユニット)」を2020年12月より販売している。ユニットバス内のトイレ・洗面とシャワー・バスの間に扉を設けて空間

を分離する。扉により浴室からトイレへの水や蒸気の侵入を軽減することができる。洗面に収納やコンセントを新設することで、機能性を重視した。シャワーパネルはターク調とマープル調の2種類から選べる。築古のマンションのほか、新築マンションへの展開も予定している。

東京都国分寺市を中心



▲左：導入前、右：導入後の画像

に9棟を管理している日吉興業(東京都国分寺市)は10月、自社で保有する築30年のマンションのうち2部屋に同商品を導入した。2部屋はいずれも水漏れが発生し、長期空

室となっていた。水漏れ修理のため、ユニットバスの交換が必要になったことで導入を決めた。室内全体に大規模なリフォームをしたこともあり、家賃を従来の4万3000円から1万4000円上げて募集を開始。2週間で1部屋の入居が決まった。日吉興業の神山武大社長は「従来のユニットバスに比べ清潔感が生まれたことで、女性の入居者を想定した部屋づくりができた」と語る。